

五期俳句会第百五十五回七月七日

七夕生まれの、久貝さんにケーキを（と言っても皆で食べる為にカットして貰ってあり）、又蔵本さんはおはぎを、等他にもおやつが色々あり食べる会の様相でした。

街中の黒い日傘の少し不気味

浅香さとみ

梅雨なかばアロマの香り部屋に満ち

久貝貞子

四分の一の西瓜を持って余す

浅香さとみ

定まらぬ気候に惑う夏着物

塩田豆子

片付けの下手自認する半夏生

浅香さとみ

神苑のはやくも菽の咲き初めて

松浦武子

煽ぐ手を換えて長々昼寝かな

今井由紀子

水盤に尼僧浮かべし鉄線花

今井由紀子

七夕や若き日の恋思ひ馳せ

松浦武子

梅雨晴れや部屋開け放ち風走る

塩田豆子

骨切の音伝はりぬ鱧おとし

久貝貞子

雨ふくみ紫陽花参道狭くして

今井由紀子

睡蓮を揺らせて鯉の泳ぎをり

松浦武子

柴犬の毛が生え替り夏至る

久貝貞子

青楓有るか無きかの風に揺れ

松浦武子

何故の夫のため息梅雨夕焼け

浅香さとみ

久貝さんが良くなったかと思えば今度は塩田さんの調子も
う一つ、一応出席されて句を出して選句には参加されずに帰ら
れた。暑さの加減で皆バテ気味、私もこの仕事が生んどイ。